



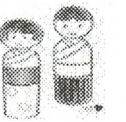
岩手県後期高齢者医療広域連合議会

年間保険料 均等割2900円 ↗、所得割 1.17% ↗ 議決！

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町3丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049



2月19日、盛岡市の岩手県自治会館で、岩手県高齢者医療広域連合議会2月定例会が開催されました。

今回の定例会は、令和6年度の予算を審議する議会、2年に1回とされている後期高齢者医療保険の保険料の見直しが行われました。保険料について、年間で均等割で2900円、所得割で1.17%（令和6年度軽減措置あり）の引き上げが賛成多数で可決されました。日本共産党議員団は、保険料の引き上げに關係する議案に反対をしました。

**国の負担を削減し、育児支援金を求め、
保険料をあげるのはおかしい！**

中村勝明議員（田野畑村議会・日本共産党）は、後期高齢者医療制度から出産育児支援金を拠出することについて、老人医療費をいち早く「無料」にした沢内村のある県として、「広域連合」と「広域連合議会」が一体となつて、「こういうやり方は駄目だ」というべきでないかと質しました。

**若い人たちが
支えることも大事**

山本正徳連合長（宮古市長）は、時代は変わってきている。高齢者も大事だが、若い人たちが支えることも大事だ。大枠は皆で支えあうことが大事だ。高齢者には所得が少ない人が多い

いので手立てが必要で、そういう方には保険料を軽減し、皆で支えあう時代になつていけると考えるとの見解を示しました。

**国の負担分を保険者に
回すのは邪道！**

城内仲悦議員（久慈市議会・日本共産党）は、2022年10月から、医療費の2割負担を導入したばかりで、国は約1000億円の負担を削っている。国の負担を削って、「被保険者にその負担を回すな」と声をあげていくべきでないか。保険者にその負担増を求めるのは邪道ではないかと質しました。

**要望書は繰り返し
出してきている**

山本正徳連合長は、国に対して、「責任をもって対応していただきたい」という要望書は出してきている」と述べるにとどまりました。

吉田事務局長は、次のように述べました。現在、医療費負担は、1割、2割、3割負担がある。短期間に2割負担以上の負担増は行わないよう要望している。

財務省で、1割負担をなくそうという動きがあったので要望したもので、引き続き要望していきたいと応じました。

**基金を使い引き上げを
もっと抑えるべき**

城内仲悦議員は、基金残高（令和5年度末見込み45億円）を踏まえ、取り崩しを増やし、もっと保険料の引き上げを抑えることができるのではないかと、質しました。

**保険料抑制だけに
備えるものでない**

鎌田総務課長は、基金は、保険料の抑制だけでなく、予期できない医療費給付の増や、保険料が集まらなくなった場合等に備えるため、今回は15億円を取り崩すこととしたと説明しました。

【参考】 制度改革に伴う保険料負担のあり方の見直しイメージ

